

地域全体での避難訓練で防災意識の向上へ！

白塚地区自主防災協議会 会長 濱口光正

白塚地区は伊勢湾に面し、常に地震による津波の災害に脅かされています。今までは各自治会単位などで個別に避難訓練を行っていましたが、毎年、休日の実施により参加者も限定されていました。

そこで、昨年11月21日(木)の平日に大規模な地震が発生し、伊勢・三河湾内に津波警報が発表されたことを想定した避難訓練を行いました。白塚地区内の地域住民や企業関係者、幼稚園児、白塚小学校の児童ら、計542人の皆さんに避難行動を実施していただきました。

訓練の際には、避難経路や避難時間なども考えた上で、複数の避難場所を臨機応変に考えて避難しま

した。白塚小学校や白塚幼稚園から避難した皆さんは、まず豊野みかんの里(一身田豊野)へ行き、その後、さらに高台にある豊野団地中公園へ避難しました。各自主防災会長や自治会長、教員の誘導の下、速やかに避難が完了し、避難行動の意識向上に役立てることができました。

今後も地域全体が一体となった防災訓練などを実施することで、一人一人が自分の身を守るための防災意識の向上と隣近所の助け合いによる共助力の強化を図ります。

次の段階では、避難完了後に行う必要のある避難所運営を目標にして、災害時に役立つ活動を進め、防災力の高い組織づくりに努めていきます。



「自助、共助、公助」で災害に備えよう！

自助、共助、公助の違いとは

災害時には、個人、地域、行政のそれぞれに役割があり、以下の3つの考え方が非常に大切です。

- 自助…自らの身の安全は自ら守るという考え方
- 共助…自らの地域はみんなで守るという考え方
- 公助…行政、防災関係機関による公的な支援の考え方

大規模災害時の「公助の限界」

東日本大震災や西日本豪雨等による水害など、大規模災害時では公助の機能に限界がありまし

た。災害から身を守るためには、まず自分の命は自分で守ることが必要となります。

また、いざというとき、頼りになるのは自主防災組織などの地域の人々や、隣近所をはじめとした住民同士の助け合いです。そのため、家庭や地域で防災・減災について話し合い、普段から災害への備えを心掛けてください。いざという時に備えて日常的に防災を意識して取り組みましょう。



自助、共助、公助について

南海トラフ地震に備えよう！

南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が高まったときに発表される地震情報です。他地域で発生した南海トラフ地震で、津市に被害が出ていない場合でも、後発地震に備えることができます。

南海トラフ地震臨時情報が発表されたら

1週間を基本とした防災対応をとるよう、津市から注意喚起を行いますので、巨大地震の発生に備えて、右にあるような防災行動をとってください。ま

た、避難場所については、知人宅や親せき宅などへの避難を原則としているので、普段から話し合いをして避難場所・経路の確保を心掛けましょう。

●日頃から確認すること

避難場所・避難経路、家族との安否確認手段、家具の固定、非常持ち出し品など

●安全な防災行動の例

高い所に物を置かない、屋内の比較的安全な場所で生活する、すぐ避難できる準備をしておくなど